

2022年12月6日

年末年始(2022年12月23日~2023年1月3日)の旅行動向

- 国内旅行者数は2,100万人、対前年116.7%(対2019年71.8%)
- 同行者は「家族」が増加、コロナ禍で増えていた「ひとり」は減少へ
旅行先は遠方も徐々に回復、ホテル滞在が大きく増加、都市型観光が回復へ
- 海外旅行人数は15万人(対前年750%、2019年18.1%)を予測
出入国の規制は緩和されたものの、物価高や資源高、円安の影響が大きい

12/21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3	4
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日・祝	振替	火	水



調査対象期間(出発日基準)

JTBは、「年末年始(12月23日~1月3日)に1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。本レポートは旅行動向アンケート、経済指標、業界動向や予約状況などから推計しています。

(図表1) 年末年始旅行動向推計数値

	2022/2023年末年始			2021/2022年末年始		2020/2021年末年始		2019/2020年末年始	
	推計	前年比	対2019年比	旅行実績に基づき再推計	前年比	旅行実績に基づき再推計	前年比	旅行実績に基づき再推計	前年比
総旅行人数(延べ)	2,115.0万人	117.4%	70.3%	1,802.0万人	179.9%	1,001.5万人	33.3%	3,009.3万人	98.2%
国内旅行人数	2,100.0万人	116.7%	71.8%	1,800.0万人	180.0%	1,000.0万人	34.2%	2,926.6万人	97.9%
海外旅行人数	15.0万人	750.0%	18.1%	2.0万人	133.3%	1.5万人	1.8%	82.7万人	108.8%
一人あたり旅行費用									
国内旅行費用	37,000円	112.1%	115.6%	33,000円	100.0%	33,000円	103.1%	32,000円	94.1%
海外旅行費用	260,000円	-	128.7%	-	-	-	-	202,000円	99.0%
総旅行消費額	8,160億円	137.4%	73.9%	5,940億円	180.0%	3,300億円	29.9%	1兆1,036億円	94.2%
国内旅行	7,770億円	130.8%	83.0%	5,940億円	180.0%	3,300億円	35.2%	9,365億円	92.1%
海外旅行	390億円	-	23.3%	-	-	-	-	1,671億円	107.7%
平均旅行日数	3.2日	▲0.1日	▲0.4日	3.3日	▲0.4日	3.7日	0.1日	3.6日	▲0.2日

*総旅行人数は、延べ人数。一人あたり旅行費用は一人1回あたりの費用
*国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)
*国内旅行費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む

*対前年比は小数点第二位以下を四捨五入
*海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)
*海外旅行費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く

【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間：2022年11月11日~11月17日

調査対象：全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数：事前調査10,000名 本調査1,319名

(事前調査で「年末年始に国内旅行に行く/たぶん行く」と回答した人を抽出し本調査を実施)

調査内容：2022年12月23日~2023年1月3日に実施する1泊以上の国内旅行

(帰省を含む。商用、業務等の出張旅行は除く)

調査方法：インターネットアンケート調査

<報道関係者からのお問合せ先>

JTB 広報室 03-5796-5833(東京) 06-6260-5108(大阪)

<現在の社会経済環境と生活者の動き>

1. 新型コロナウイルス感染症と旅行・観光の動き

新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)の世界的な流行からまもなく3回目の年末年始を迎えます。WHOは「パンデミック解除宣言」を現在も出してはいませんが、一部の国と地域を除き、日常生活や経済活動の正常化に向け大きく舵が切られたことにより、感染対策の緩和が進み、特に欧米ではマスクのない暮らしが広がっています。

旅行・観光分野においても、入国制限の撤廃や隔離期間の短縮などの水際対策の緩和、国際航空便の再開が進み、旅行の早期回復に期待がかかります。国連観光機関(UNWTO)が2022年9月に発表した調査によると、地域差はあるものの、国際観光客数は2024年には世界全体で2019年の約8割にまで回復するとされています。一方で、ウクライナ情勢をはじめとする不安定な国際情勢によるエネルギー価格や物価の高騰は、世界中の人々の生活に影響を与えています。

日本国内では、2022年10月11日から1日あたりの新規入国者数の上限が撤廃され、陰性証明や隔離期間など入国時の条件の緩和、さらには訪日外国人観光客の個人旅行も解禁となり、日本人の海外旅行と外国人の訪日旅行が容易になりました。国内旅行については、2021年4月より需要喚起策として県民割など域内旅行に限定した「地域観光事業支援」が実施されてきましたが、全国を対象とした「全国旅行支援」が10月11日(東京都は10月20日)から始まったことで、各地で盛況となっています。しかしながら、日本国内も円安やエネルギー高による物価上昇が生活に影響を及ぼしつつあり、また現在、第8波の新型コロナの感染が拡大し、行動制限の要請はなくとも一定程度の人が旅行を控えるとみられます。全国旅行支援が年内は12月27日で終了する予定でもあることから、旅行全体は本格的回復に向かいつつも、年末年始期間は多少の影響があると予想されます。

2. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

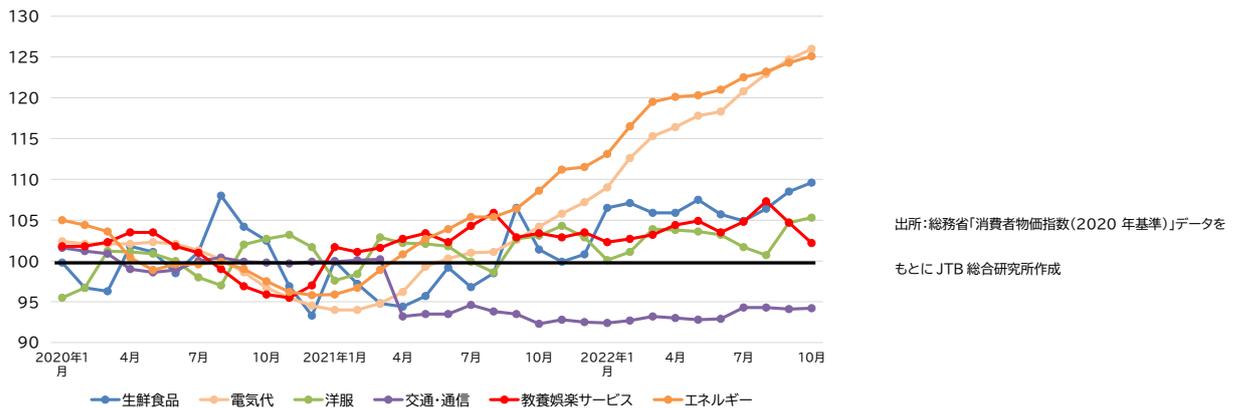
コロナ禍における旅行をとりまく経済環境や生活者意識は、ここにきて大きく変わりつつあります。2020年に新型コロナが世界的に広がってしばらくは、行動制限の要請により外出や飲食に関連する消費が減少、その結果可処分所得が増加となり、それに伴うアフターコロナにおける旅行のリベンジ消費への期待が高まっていました。しかしながら2022年以降円安ドル高が急速に進み、今年10月22日の外国為替市場では、32年ぶりに一時1ドル150円台を記録しました(図表3)。輸入原価の上昇やエネルギー価格の高騰などによる物価上昇が家計に影響を与えています。主な消費者物価指数を見ると、交通・通信以外の項目で上昇が見られ、特にガソリン価格をはじめとするエネルギー関連や電気代の上昇が著しくなっています(図表2)。

日本銀行の「生活意識に関するアンケート調査」の「現在の暮らし向き(ゆとり)」をみると、「ゆとりがなくなってきた」の割合は、2021年9月以降、それまでの横ばいから増加しており、2022年9月には前年同月比14.4ポイント増加の50.7%になりました。生活のゆとり意識は悪化しています(図表4)。

JTBが実施したアンケートで、自身の生活と年末年始の旅行について当てはまる状況を聞いたところ、自身の生活では「いつもより生活費を節約している」は16.6%となりました。一方で「趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない(7.1%)」は2021年度調査から1.2ポイント増加、「先行きがわからないので今のうちに大きな支出を考えたい(4.5%)」は3.0ポイント増加するなど、物価高への対応はする一方でメリハリをつけて欲しいものには消費する層も一定数いると言えそうです。年末年始の旅行については、「昨年より旅行にお金をかけず質素に過ごす予定(14.9%)」は昨年より1.1ポイント増加しました。また「昨年同時期に比べてお出かけや外出する頻度を減らす」が11.0%と「増やす」より多くなりました(図表5)。

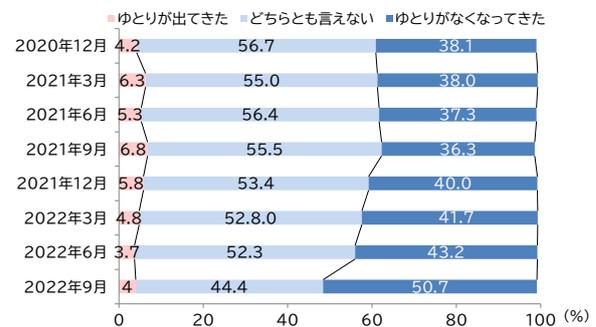
「今後1年間の旅行の支出に対する意向」を聞いたところ、「支出を増やしたい」と回答した人は 12.1%で、2021 年度調査において、「コロナ禍(2020 年以降)より旅行支出を増やしたい」と回答した 17.3%から 5.2 ポイント減少しました。「支出を減らしたい(44.1%)」は同調査(33.8%)から 10.3ポイント増加しました(図表 6)。2020 年の年末が新型コロナ感染拡大期だったことから、昨年はその反動を受け「旅行日数を増やす」「支出を増やしたい」が大きく増えていましたが、今年は落ち着きを取り戻した結果となりました。

(図表 2)主な消費者物価指数の推移



(図表3)2022 年の日本円に対する主な外国為替のレート (図表4)現在の暮らし向き

(2020 年12月~2022年 9 月)



(図表5)今の自身の生活と年末年始について(複数回答 N=10,000)

<自身の生活について>	2022/2023 年末年始	前年比
昨年より収入が増えた	4.9	+0.9
昨年より収入が減った	15.9	+1.5
将来に不安はないので貯蓄や資産運用は増やしていない	4.5	+0.7
将来が不安なので、貯蓄や資産運用を増やしている	13.7	▲1.1
いつもより生活費を節約している	16.6	—
特に生活費を節約していない	5.8	—
趣味や旅行などにかかる費用は減らしていない	7.1	+1.2
趣味や旅行などにかかる費用を減らしている	16.1	▲0.6
先行きがわからないので、今のうちに大きな支出を考えたい	4.5	+3.0
先行きがわからないので、大きな支出は控えておきたい	19.0	▲6.2
<年末年始の旅行について>		
昨年の年末年始より旅行日数を増やす	3.2	▲2.9
昨年の年末年始より旅行日数を減らす	3.8	▲5.3
昨年同時期に比べて、お出かけや外出する頻度を増やす	7.0	—
昨年同時期に比べて、お出かけや外出する頻度を減らす	11.0	—
昨年より旅行にお金をかけて豪華に過ごす予定	2.9	▲0.5
昨年より旅行にお金をかけず質素に過ごす予定	14.9	+1.1

(図表6)今後1年間の旅行の支出に対する意向(単一回答 N=10,000)

		2022/2023 年末年始	【参考】2021/2022年末年始	
			2020年以降 (コロナ禍)と 比較した支出 意向	2019年以前 (コロナ前)と 比較した支出 意向
支出を増やしたい		12.1	17.3	11.2
同程度		43.7	48.9	54.5
同程度	単価を減らし回数を増やす	8.5	8.0	8.3
	単価を増やし回数を減らす	9.5	9.8	9.8
	単価も回数も同程度	25.7	31.1	36.4
支出を減らしたい		44.1	33.8	34.3

*無回答があるため単一回答でも合計100%にはなりません。

<2022年～2023年 年末年始の国内旅行動向予測>

3. 今年の年末年始期間の日並びは、一般的には6連休で、長期休暇にはなりにくいアンケートでは期間中の旅行意向は、「旅行に行く(行く/たぶん行くの合算値)」人は16.3%、前年から0.6ポイント減少

2022年12月15日～2023年1月14日の日並び

日	月	火	水	木	金	土
				12月15日	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1月1日	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14

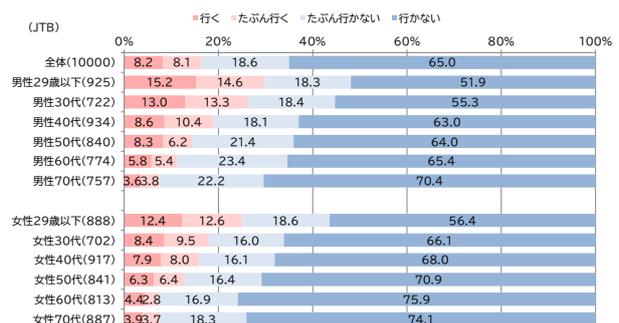
今年の年末年始の一般的な休暇は、12月28日(水)を仕事納めとすると、1月3日(火)までの6連休になります。その前後の平日がそれぞれ3日間続いたため休みが取りにくく、例年に比べ長期休暇になりづらい日並びです。

前述の事前調査で、期間中に旅行に行くかどうか聞いたところ、「行く(8.2%)」および「たぶん行く(8.1%)」と回答した人の合計は16.3%となり、前年より0.6ポイント減少しました(図表7)。コロナ禍前である2019年の調査では「行く+たぶん行く」が20.0%だったことから、旅行意向はコロナ禍前の水準には至りません。性年代別でみると、男女とも若い年代ほど旅行意向が高い結果でした。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」は男性29歳以下が最も高く29.8%、男性30代(26.3%)、女性29歳以下(25.0%)、と続きました。一方、旅行意向が最も低かったのは男女70歳以上(男性7.4%、女性7.6%)でした(図表8)。行かない理由は「年末年始はいつも家でゆっくりしているから」が最も多い36.9%、次いで「年末年始は混雑するから(32.1%)」、「新型コロナウイルス感染症がまだ収束していない/拡大の懸念があるから(22.4%)」となりました。(図表9)

事前調査で「年末年始に国内旅行に行く/たぶん行く」と回答した人のうち1,319人に旅行の目的や動機を聞きました。上位から「家族と過ごす(34.9%)」「帰省(25.3%)」「リラックス、のんびりする(25.0%)」となりました(図表10)。

(図表7)年末年始の旅行動向(単一回答 N=10,000) (図表8)年末年始の旅行意向(性年代別)

	2022/2023 年末年始 (N=10,000)	2021/2022 年末年始 (N=10,000)	前年比	2019/2020 年末年始 (N=20,000)
行く	16.3	16.9	▲0.6	20.0
行く	8.2	8.6	▲0.4	11.1
たぶん行く	8.1	8.3	▲0.2	8.9
行かない	83.6	83.1	+0.5	80.1
たぶん行かない	18.6	21.1	▲2.5	21.2
行かない	65.0	62.0	+3.0	58.9



(図表9)年末年始に行かない理由

(複数回答 N=8,365)

	%
年末年始はいつも家でゆっくりしているから	36.9
年末年始は混雑するから	32.1
新型コロナウイルス感染症がまだ収束していない /拡大の懸念があるから	22.4
年末年始は旅行費用が高いから	20.0
家計に余裕がないので	18.1
特に旅行したい場所がないから	12.0
仕事などで休暇が取れないから	11.0
なんとなく行く気にならないから	10.7
家を離れられない事情があるから	7.4
他の時期に旅行に出かけるから	7.1

(図表10)旅行の目的や動機(複数回答 N=1,319)

	%	前年比
家族と過ごす	34.9	+1.7
帰省	25.3	—
リラックスする、のんびりする	25.0	—
食事、地域の味覚を味わう	20.3	+5.5
温泉でゆっくりする	20.1	▲0.8
家族や親戚を訪問する	18.4	—
自然や風景を楽しむ	15.5	+2.8
毎年恒例なので	14.6	▲22.0
知人・友人・パートナーと過ごす	14.4	—
正月情緒や気分を味わいたいので	10.6	▲1.1

*選択肢を変更しているため、前年比は参考値

4. 国内旅行人数は 2,100 万人(実績推計 対前年 116.7%、対 2019 年 71.8%) 国内旅行平均費用は 37,000 円(実績推計 対前年 112.1%、対 2019 年 115.6%)

年末年始期間(2022年12月23日~2023年1月3日)の国内の旅行動向については、各種経済指標、交通機関各社の動き、宿泊施設の予約状況、各種定点意識調査などをもとに算出し、2,100万人(対前年116.7%、対2019年71.8%)と推計します。また、国内旅行平均費用は37,000円(対前年112.1%、対2019年115.6%)、総額7,770億円と推計します。旅行費用については、2泊3日から4泊5日までの割合が上昇したこと(図表12)、実家や知人宅での宿泊が減少しホテル宿泊が増加したこと(図表19)、物価上昇等を考慮して算出しました。帰省を含むアンケート調査では出発日のピークは30日です(図表11)。

(図表11) 旅行の出発日 (単一回答 N=1,319)

	%	前年比
12月22日(木)以前	17.6	+4.8
12月23日(金)	4.3	+2.0
12月24日(土)	6.7	+1.2
12月25日(日)	3.7	▲4.5
12月26日(月)	4.3	▲0.1
12月27日(火)	4.6	▲0.3
12月28日(水)	7.4	+0.6
12月29日(木)	13.1	+0.9
12月30日(金)	13.7	▲2.0
12月31日(土)	10.4	▲2.2
1月1日(日・祝)	5.7	▲0.3
1月2日(月・振替)	5.2	▲0.3
1月3日(火)	3.2	+0.1

5. 同行者は「家族」が増加、コロナ禍で増えていた「ひとり」は減少へ 旅行先は遠方も徐々に回復、ホテル滞在が大きく増加、都市型観光が回復へ

予定している年末年始の旅行内容の詳細は以下の通りとなりました。

旅行日数:「1泊2日」が35.6%と最も多かったものの、前年より0.8ポイント減少しました。「2泊3日(28.6%、前年比+2.3ポイント)」「3泊4日(15.5%、同+0.3ポイント)」「4泊5日(7.8%、同+0.1ポイント)」は増加し、5泊以上は7泊を除き昨年より割合が減少しました(図表12)。

同行者:「家族づれ」が60.0%と半数以上を占め、昨年からは3.2ポイント増加しました。家族の内訳では、「子供づれ(中学生まで)(24.3%)」が1.2ポイントの減少、「夫婦のみ(18.3%)」も0.2ポイント減少の一方で、「それ以外(母娘、三世代等)(17.4%)」が4.6ポイント増加し、同行者の人数が増えている傾向となりました。一方、コロナ禍で増加していた「ひとり(19.3%)」は3.6ポイントの減少となりました。(図表13)。

旅行先:最も割合が高かったのは「関東(22.6%、前年比+0.4ポイント)」、次が「近畿(17.4%、同▲0.1ポイント)」でした。コロナ禍で減少傾向にあった「北海道(6.7%、同+1.1ポイント)」および「沖縄(3.1%、同+

1.0ポイント)は昨年より増加しました(図表14)。

その方面を選んだ理由は「帰省先なので(37.1%)」が最も高くなりましたが、前年より5.5ポイント減少しました。続いて「行きたい場所があるので(30.6%、同▲3.7ポイント)」「泊まりたい宿泊施設があるので(18.0%、同▲1.1ポイント)」と、いずれも昨年より減少しました。「自家用車やレンタカーで行ける場所なので(16.1%、同+5.1ポイント)」「自然が多いなど、3密を回避しやすい地域なので(10.6%、同+3.5ポイント)」「新型コロナウイルスの感染者数が少ない地域なので(3.9%、同+0.7ポイント)」など、感染症防止策を意識した選択肢が引き続き増加している一方で、「友人・知人など会いたい人が住んでいるので(13.4%、同+5.4ポイント)」「行ってみたいイベントがあるので(9.2%、同+5.2ポイント)」など、個人の興味に関わる項目が増加しました(図表15)。

居住地別に旅行先を見ると、「中部」以外のすべての地域で、昨年に比べ、居住地域外への旅行需要が増えています。感染防止策に留意しながらも徐々に遠方への旅行が回復している様子がうかがえます(図表16)。

一人当たりの旅行費用:「1万円～2万円未満(23.0%、前年比▲2.5ポイント)」が最も多く、次いで「2万円～3万円未満(18.7%、同+0.6ポイント)」「1万円未満(16.4%、同▲5.3ポイント)」となりました。2万円未満は7.8ポイント減少した一方で、2万円以上は「40万円以上(0.2%、同▲0.1ポイント)」を除くすべての項目で増加し、特に「4万円～5万円未満」「7万円～10万円未満」で高い増加率となりました(図表17)。

利用交通機関:「乗用車(59.7%)」が最も多く、昨年から5.0ポイント増加しました。コロナ禍では乗用車の利用意向が高まりましたが、現在、ガソリンの価格が高騰しているにも関わらず、依然高い意向となりました。その他では「従来の航空会社(13.3%、前年比+0.2ポイント)」「フェリー・船舶(1.9%、同+0.4ポイント)」が昨年より増加しています(図表18)。

利用宿泊施設:「ホテル」が43.1%と最も多く、次いで「実家・親族の家(34.5%、前年比▲2.4ポイント)」となりました。2021年度調査では「ホテル」は1.3ポイント減少し34.6%でしたが、今回の調査では8.5ポイント増加しました。一方、「旅館」は6.9ポイント減少しました。コロナ禍では、感染症防止の観点から、自然や温泉地に近い旅館の滞在意向が高い傾向でしたが、ホテルが回復しつつあり、都市部への意向が高まっている様子がうかがえます(図表19)。

(図表12)旅行日数(単一回答 N=1,319) (図表13) 旅行の同行者 (単一回答 N=1,319)

	%	前年比
1泊2日	35.6	▲0.8
2泊3日	28.6	+2.3
3泊4日	15.5	+0.3
4泊5日	7.8	+0.1
5泊6日	4.8	▲0.5
6泊7日	2.0	▲0.9
7泊8日	2.8	+0.9
8泊以上	3.0	▲1.4

	%	前年比
家族づれ	60.0	+3.2
子づれ(中学生まで)	24.3	▲1.2
夫婦のみ	18.3	▲0.2
それ以外(母娘、三世代等)	17.4	+4.6
家族と友人・知人	6.2	+0.2
友人・知人・パートナー	12.1	+0.6
団体(職場など)	0.8	+0.2
ひとり	19.3	▲3.6
その他	1.5	▲0.6

(図表14)旅行先(単一回答 N=1,319)

	%	前年比
北海道	6.7	+1.1
東北	7.5	▲0.5
関東	22.6	+0.4
甲信越	7.2	▲1.2
東海	12.8	+0.8
北陸	3.3	▲0.7
近畿	17.4	▲0.1
中国	4.8	▲1.2
四国	3.0	▲0.7
九州	11.6	+1.1
沖縄	3.1	+1.0

(図表15)その方面を選んだ理由 (複数回答 N=1,319)

	%	前年比
帰省先なので	37.1	▲5.5
行きたい場所があるので	30.6	▲3.7
泊りたい宿泊施設があるので	18.0	▲1.1
自家用車やレンタカーで行ける場所なので	16.1	+5.1
友人・知人など会いたい人が住んでいるので	13.4	+5.4
自然が多いなど、3密を回避しやすい地域なので	10.6	+3.5
行ってみたいイベントがあるので	9.2	+5.2
手頃な値段のツアーをみつけたので	6.4	▲0.5
その土地で今流行っているものを体験したいので	4.2	▲0.1
新型コロナウイルスの感染者数が少ない地域なので	3.9	+0.7
家族の赴任先なので	3.9	+1.9
その他	3.3	▲0.4
訪日外国人(インバウンド)などで混雑してなさそうだから	2.0	-

(図表16)回答者の居住地地域別 旅行先(前年比較)

(単一回答)

(JTB) (%)		2022/2023年 年末年始の旅行先									
		北海道	東北	関東	甲信越 (山梨、長野、新潟)	東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	北陸 (富山、石川、福井)	近畿	中国 四国	九州	沖縄
全体		5.5 6.7	8.0 7.5	22.2 22.6	8.4 7.2	12.0 12.8	4.0 3.3	17.6 17.4	9.7 7.7	10.5 11.6	2.1 3.1
居住地地域	北海道	73.9 68.9	4.3 1.6	8.7 11.5	0.0 1.6	2.2 0.0	0.0 0.0	6.5 11.5	2.2 0.0	1.6 1.6	0.0 3.3
	東北地方	5.1 6.8	65.4 52.1	14.1 27.4	1.3 1.4	2.6 5.5	3.8 1.4	3.8 2.7	1.3 0.0	0.0 0.0	2.6 2.7
	関東地方	3.8 5.4	8.9 8.9	36.6 34.2	13.4 11.5	11.2 12.1	2.8 2.7	10.5 13.0	5.2 3.3	5.5 5.8	2.0 2.9
	中部地方	3.8 1.8	3.1 4.1	18.3 16.4	12.2 11.4	29.8 34.1	9.5 7.7	12.2 15.9	5.7 2.7	3.1 3.6	2.3 2.3
	近畿地方	2.7 4.1	1.7 1.8	12.4 12.7	3.4 3.6	9.7 10.4	4.7 5.0	45.6 36.2	13.1 16.7	4.0 6.8	2.7 2.7
	中国・四国地方	2.9 0.0	0.0 0.9	8.8 14.0	2.0 0.9	1.0 4.7	1.0 0.9	21.6 26.2	49.0 32.7	12.7 16.8	1.0 2.8
	九州地方	0.9 0.0	0.9 0.0	4.4 13.0	0.9 0.0	1.8 0.0	0.0 0.0	3.5 8.9	7.0 5.7	78.9 65.9	1.8 6.5

(図表17)一人当たり旅行費用(単一回答 N=1,319) (図表18)利用交通機関(複数回答 N=1,319)

	%	前年比
1万円未満	16.4	▲ 5.3
1万円～2万円未満	23.0	▲ 2.5
2万円～3万円未満	18.7	+0.6
3万円～4万円未満	10.0	+1.0
4万円～5万円未満	13.0	+2.4
5万円～7万円未満	5.7	+0.1
7万円～10万円未満	8.0	+2.9
10万円～15万円未満	2.7	+0.5
15万円～20万円未満	1.7	+0.1
20万円～30万円未満	0.5	+0.4
30万円～40万円未満	0.2	+0.0
40万円以上	0.2	▲ 0.1

	%	前年比
乗用車	59.7	+5.0
自家用車	51.4	—
レンタカー	8.3	—
鉄道	44.7	▲ 2.1
JR新幹線	22.9	▲ 1.3
JR在来線・私鉄	21.8	▲ 0.9
航空機	16.9	▲ 0.6
従来の航空会社	13.3	+0.2
格安航空会社(LCC)	3.6	▲ 0.8
高速/長距離バス	7.0	▲ 0.8
貸切バス	1.4	▲ 0.3
フェリー・船舶	1.9	+0.4
その他	0.3	▲ 0.4

(図表19)利用宿泊施設 (単一回答 N=1,319)

	%	前年比
旅館・ホテル	54.8	▲ 1.4
ホテル	43.1	+8.5
旅館	11.8	▲ 6.9
旅館・ホテル以外の宿泊施設	7.2	—
民宿・ペンション・公的施設・オーベルジュ等	2.7	▲ 0.3
民泊・貸別荘	1.0	—
ホステル・ゲストハウス	1.4	—
キャンプ場・グランピング・キャンピングカー・車中泊など、アウトドアに関する宿泊	2.0	—
本来宿泊施設ではないユニークな施設(寺・図書館・城など)	0.2	—
実家・親族の家	34.5	▲ 2.4
友人・知人の家	2.2	▲ 0.5
その他	1.3	▲ 2.8

*選択肢を変更しているため、前年比は参考値、四捨五入のため小計が合わない箇所があります

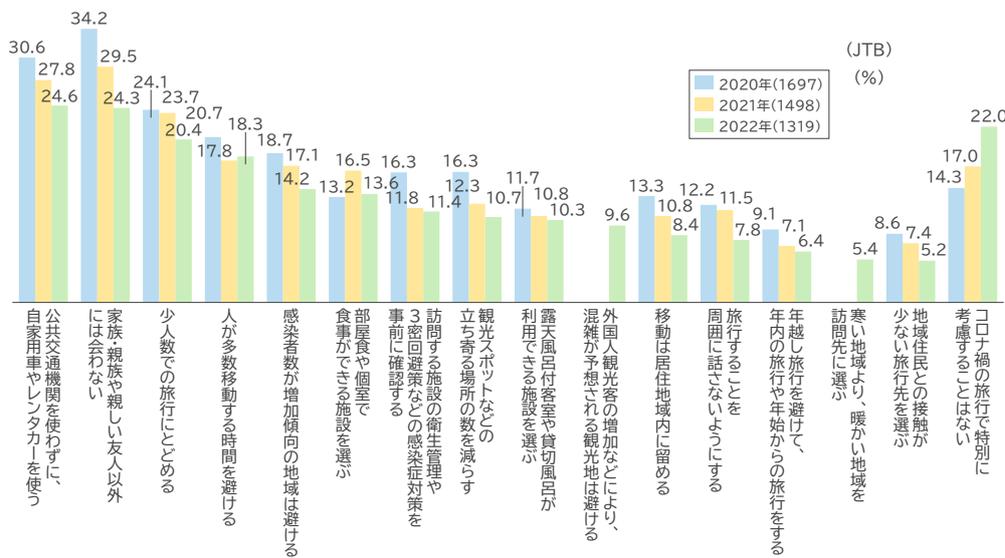
6. 感染防止に向けた特別な配慮は続くも、意識は徐々に正常化へ

新型コロナの日本国内での発生状況は、秋ごろから第8波を迎えています。アンケートでは、新型コロナの現状を踏まえて「年末年始の旅行において特別に考慮すること」と「懸念していること」、そして「新型コロナの感染状況が拡大した場合の対応について」聞きました。

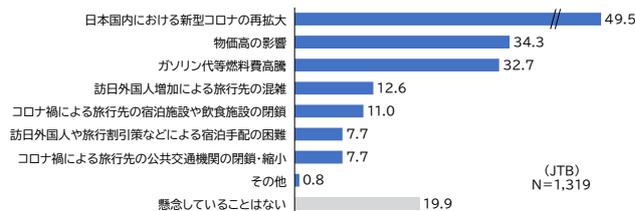
「特別に考慮すること」で最も高かったのが「公共交通機関を使わずに、自家用車やレンタカーを使う(24.6%、前年比▲3.2ポイント)」、次いで「家族・親族や親しい友人以外には会わない(24.3%、同▲5.2ポイント)」「少人数の旅行にとどめる(20.4%、同▲3.3ポイント)」で、ほとんどの項目が昨年よりポイントを下げる結果となりました。その中で「人が多数移動する時間を避ける(18.3%)」は昨年より0.5ポイント増加しました。また新たに追加した「外国人観光客の増加などにより、混雑が予想される観光地は避ける」は9.6%となりました。また「コロナ禍の旅行で特別に考慮することはない(22.0%)」は昨年より5.0ポイント増加しました(図表20)。

「懸念していること」で最も高かったのが、「日本国内における新型コロナの再拡大(49.5%)」、次いで「物価高の影響(34.3%)」「ガソリン代の燃料費高騰(32.7%)」となりました(図表 21)。また「新型コロナの感染状況が第 7 波(2022 年夏ごろ)と同規模に拡大した場合の対応」について聞きました。結果は「予定通り出かける」が 64.7%と最も多く、「その旅行は延期または中止する(13.8%)」が続きました。コロナ禍も 3 年目となり、十分な感染防止策を実施しながら旅行する人の割合が増加しています(図表22)。

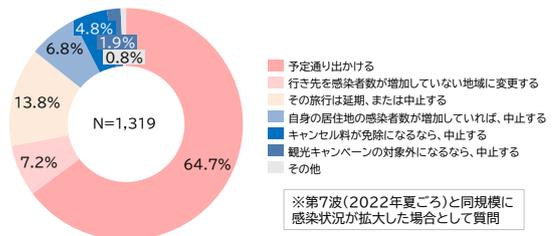
(図表20)今年の年末年始の旅行において特別に考慮すること(3年比較)(複数回答)



(図表 21)年末年始の旅行で懸念していること(複数回答)



(図表22)新型コロナの感染状況が拡大した場合の年末年始の旅行の対応について(単一回答)

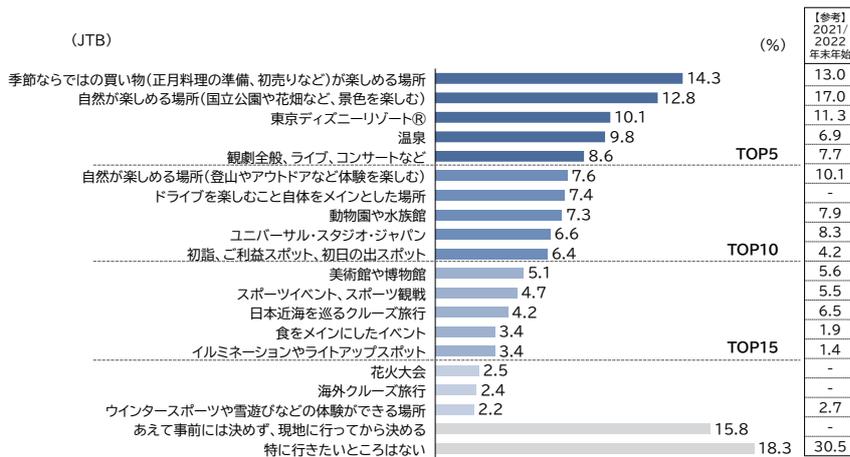


7. 今年の年末年始で気になる場所は、「季節ならではの買い物が楽しめる場所」「自然が楽しめる場所」「東京ディズニーリゾート®」

今年の年末年始に旅行や日帰りで出かける場所として、どのような所が気になっているか聞いてみました。「季節ならではの買い物が楽しめる場所(14.3%)」が最も高く、次いで「自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など景観を楽しむ)(12.8%)」、「東京ディズニーリゾート®(10.1%)」となりました(図表23)。

JTBの宿泊・企画商品の予約状況を見ると前年比115%(12月1日付)となりました。東京ディズニーリゾート®を含む関東、3年ぶりにカウントダウンイベントが開催されるユニバーサル・スタジオ・ジャパンを含む関西が好調で、年末年始も全国から高い人気となっています。また北海道や沖縄など遠方の旅行も昨年より増加しています。さらに、全国旅行支援の年内の対象期間延長(12月21日~27日宿泊分・12月28日チェックアウトまで)も発表されたことにより、間際のお申し込みにも期待がかかります。

(図表23)今年の年末年始に出かける場所として気になるところ(日帰り含む) (複数回答 N=1,319)



8. 期間中の海外旅行人数は15万人(対前年750%、対2019年18.1%)を予測 出入国の規制は緩和されたものの、物価高や資源高、円安の影響が大きい

年末年始期間の海外旅行人数は、15万人(対前年750%、対2019年18.1%)、一人当たりの海外旅行費用は260,000円と推計します。費用は2000年以降の当社調査では過去最高となります。

この理由として、ウクライナ情勢による世界的な物価急上昇など経済への影響が大きくなっていることや、円安が進み対米ドルや他の主要通貨に対する大幅な下落が滞在費に影響を与えていることが考えられます。さらに、航空運賃の値上がりに加え、原油高が燃油サーチャージの高騰にもつながっています。

今の海外旅行の実施時期についての考え方で最も多かったのが、「国際情勢や感染症がまだ不安なので、今年度は旅行しない(22.3%)」、続いて「円安や物価が上がっているので、今年度は旅行しない(21.8%)」となり、消極的な意見が上位となりました(図表24)。

しかしながら、世界の多くの国々では、経済の正常化に向けすでに水際対策が緩和されています。以前は対応が比較的厳しかったアジア・太平洋地区では、オーストラリア・ニュージーランドや東南アジア各国などが日本に先駆け緩和を進め、交流が回復すると同時に、航空座席供給数も回復しつつあります。日本でも、今年のゴールデンウィーク頃から海外旅行商品の販売が再開されたことを機に旅行需要が戻りつつありました。10月から入国時の手続きや規制が大幅に緩和され、海外旅行の本格的回復に期待がかかります。

このような背景から、今年の年末年始の海外旅行は、比較的経済的に余裕がある層や明確な目的を持った層が、新型コロナ対策の緩和が先行している地域に行くことが予測されます。JTBの海外企画商品では、ハワイ、グアム、韓国、タイなどの売れ行きが好調です。

(図表24)今の海外旅行の実施時期についての考え方 (複数回答 N=10,000)

	%
国際情勢や感染症がまだ不安なので、今年度は海外旅行しない	22.3
円安や物価が上がっているので、今年度は海外旅行しない	21.8
国際情勢や感染症などの影響の少ない地域(渡航手続きが簡素な地域)であれば、今年度中に海外旅行したい	3.8
国際情勢や感染症、円安や物価高に関わらず、とにかく今年度中に海外旅行をしたい	2.3
次年度以降、円安や物価高がさらに進んだり物価が上がったりする可能性があるため、今年度中に海外旅行したい	2.0

(図表 25)2001年～2022年 年末年始(12/23～1/3)発表数値の推移 *調査開始は1969年

	旅行人数(万人)			一人あたりの旅行費用(円)		総消費額 (億円)	旅行日数 (日)
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
2001/2002	3,023	2,973	50	37,216	216,927	12,148	3.7
	101.1	101.7	76.3	101.2	97.2	99.5	0.2
2002/2003	2,925	2,865	60	35,390	225,170	11,494	3.9
	96.8	96.4	120.2	95.1	103.8	94.6	0.2
2003/2004	2,930	2,871	59	34,576	224,940	11,245	3.7
	100.1	100.2	97.5	97.7	99.9	97.8	▲0.2
2004/2005	2,936	2,874	62	34,472	195,923	11,120	3.6
	100.2	100.1	105.6	99.7	87.1	98.9	▲0.1
2005/2006	2,993	2,930	63	34,093	199,449	11,243	3.8
	102.0	102.0	101.5	98.9	101.8	101.1	0.2
2006/2007	3,005	2,940	64	34,160	210,510	11,397	3.8
	100.4	100.3	102.4	100.2	105.5	101.4	±0.0
2007/2008	2,991	2,930	61	34,210	217,700	11,348	3.9
	99.5	99.7	93.8	100.1	103.4	99.6	0.1
2008/2009	2,982	2,923	59	33,610	227,400	11,165	3.7
	99.7	99.8	96.9	98.2	104.5	98.4	▲0.2
2009/2010	2,916	2,859	56	32,330	194,400	10,338	3.6
	97.8	97.8	95.6	96.2	85.5	92.6	▲0.1
2010/2011	2,974	2,908	57	31,140	203,100	10,324	3.5
	102.0	101.7	101.0	96.3	104.5	99.9	▲0.1
2011/2012	2,965	2,899	66	30,670	201,800	10,214	3.6
	99.7	99.7	115.1	98.5	99.4	98.9	0.1
2012/2013	2,993	2,925	68	30,800	207,000	10,418	3.8
	100.9	100.9	104.0	100.4	102.6	102.0	0.2
2013/2014	3,053	2,983	70	32,000	217,000	11,063	3.8
	102.0	102.0	102.6	100.4	104.8	106.2	±0.0
2014/2015	3,053	2,987	66	32,000	222,000	11,014	3.8
	100.0	100.1	93.8	100.0	102.3	99.6	±0.0
2015/2016	3,059	2,996	63	34,200	217,000	11,603	3.8
	100.2	100.3	95.3	107.0	97.7	105.3	±0.0
2016/2017	2,999	2,930	69	30,900	207,000	10,472	3.6
	98.0	97.8	109.6	90.4	95.4	90.3	▲0.2
2017/2018	3,027	2,957	70	31,900	206,000	10,883	3.6
	101.0	100.9	102.8	103.2	99.5	103.9	±0.0
2018/2019	3,065	2,989	76	34,000	204,000	11,714	3.8
	101.3	101.1	108.0	106.6	99.0	107.6	0.2
2019/2020	3,009	2,927	83	32,000	202,000	11,036	3.6
	98.2	97.9	108.8	94.1	99.0	94.2	▲0.2
2020/2021	1,002	1,000	1.5	33,000	-	3,300	3.7
	33.3	34.2	1.8	103.1	-	35.2*	0.1
2021/2022	1,802	1,800	2.0	33,000	-	5,940	3.3
	179.9	180.0	133.3	100.0	-	180.0*	▲0.4
2022/2023	2,115	2,100	15	37,000	260,000	8,160	3.2
	117.4	116.7	750.0	112.1	-	137.4	▲0.1

*調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。

*平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*2020/2021と2021/2022の総消費額に関しては、国内旅行のみの旅行消費額で前年比を算出。